

# むつごろう通信

24号

2014年

9月30日発行

特任准教授の田中源吾です。よろしくお願い致します。

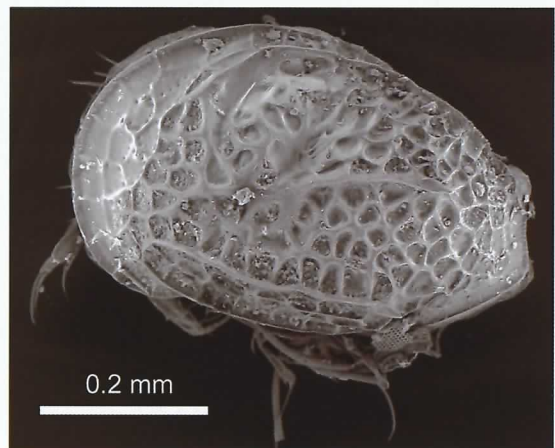
はじめまして。4月より沿岸域環境科学教育研究センター合津マリンステーションの教育関係共同利用拠点の特任准教授として、熊本大学合津マリンステーションに勤務することになりました田中源吾（たなかげんご）です。地質学と進化古生物学、特に地層中に保存された節足動物化石を用いた機能形態や古環境の復元を専門としています。



出身は愛媛県宇和島市で、大学・大学院・ポストクの間に、島根、静岡、金沢、京都、レスター（英国）を転々とし、その後、群馬県立自然史博物館に5年、海洋研究開発機構に1年、勤務しておりました。大学では島根県の宍道湖・中海・美保湾の表層堆積物を調査し、内湾や汽水域に生息する1ミリ以下の微小な甲殻類「オストラコーダ」（和名：ソコカイミジンコ）の分布と環境との関係について研究をおこないました。大学院では主に西太平洋地域のオストラコーダの分類について学び、上天草市湯島の更新世の地層から新種のオストラコーダの記載をおこなったり、三角で現生のオストラコーダを採集したりと、天草地方をフィールドとした時期もあります。博士論文はオストラコーダの眼の機能形態について執筆しました。幼少の頃より、化石採集が好きで、故郷の山や海を歩き回ってきました。天草地方は段々畑やリアス式海岸が広がり、故郷に帰ってきたような感じがします。天草も宇和島もともに中生代後期の化石が産出するには、深い因縁さえ感じます。ともあれ、合津マリンステーションは私にとって、何より楽しくて贅沢な勤務地です。

今後は、これまでの経験を活かし、教育関係共同利用拠点の課題：「有明海・八代海の広大で多様な干潟・浅海域と、そこにすむ豊かで特徴的な生物との実体験を通して、海洋環境に関する科学的な理解と関心を育て深める教育拠点」に尽力する所存です。

天草地方は日本で有数の化石の産地のみならず、陸域～深海域で堆積した、さまざまな地質現象を観察できる地質学のホットスポットです。天草地域の地質学的遺産を活用するために、地質調査をおこない、どこにどのような化石・地質現象がみられるのかを詳細に把握しておく必要があります。しかし、私の力だけでは到底達成できませんので、地球環境科学講座の先生方、御所浦白亜紀資料館の学芸員の方々、そして天草ジオパーク推進室の皆様の御協力を仰ぎ、調査・研究を進めてゆきたいと思います。地質学的タイムスケールも視野に入れた「実体験を通して、海洋環境に関する科学的な理解と関心を育て深める」教育拠点の形成に邁進してゆく所存です。まだまだ未熟な私ですが、今後とも、御指導・御鞭撻の程、どうか宜しくお願い申し上げます。



オストラコーダ